

## 平成20年3月期 第3四半期決算について

ANAグループでは、本日1月31日(木)、平成20年3月期 第3四半期決算の概況を取りまとめました。詳細は別添の「第3四半期財務・業績の概況」をご参照ください。

### 1. 平成20年3月期 第3四半期決算の連結業績

#### (1) 連結経営成績

##### ① 概況

- ・ 国際線旅客事業においては、ビジネス需要を中心とした個人需要が堅調に推移したことにより、営業収入は好調な実績となりました。
- ・ 原油市況の高騰を受けて、燃油費は前年同期比約224億円の増となりましたが、その他コストの抑制に努めた結果、営業費用は47億円の増にとどめました。

上期に計上したホテル事業資産の譲渡による特別利益を合わせた結果、四半期純利益は過去最高の1,179億円となりました。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成20年3月期 第3四半期累計	平成19年3月期 第3四半期累計	増減	前年 同期比(%)
営業収入	11,415	11,345	70	100.6
営業費用	10,475	10,428	47	100.5
営業利益	939	917	22	102.5
営業外損益	▲ 151	▲ 189	37	----
経常利益	787	727	60	108.3
特別損益	1,118	2	1,115	----
四半期純利益	1,179	426	753	276.9

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成20年3月期 第3四半期累計		平成19年3月期 第3四半期累計		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
航空運送事業	9,972	873	9,499	797	472	75
旅行事業	1,654	24	1,581	29	72	▲ 4
ホテル事業	0	0	513	49	▲ 513	▲ 49
その他の事業	1,467	46	1,482	41	▲ 14	4

※連結子会社82社 持分法適用非連結子会社5社 持分法適用関連会社18社

## ②国内線旅客事業

- ・ 東京＝大阪線など主要路線における競争が一層激化し、国内線全体で旅客数は前年同期比98.2%となりましたが、「特割」や「旅割」で従来以上に需給に応じた柔軟な運賃設定を行ったことや、ビジネスマーケット向けのセールスプロモーションを強化したことにより、旅客単価が向上しました。
- ・ また、「簡単・便利」を追求した「SKIP」サービスを国内線空港に展開するなど、利便性向上と競争力強化に努めてまいりました。

以上の結果、旅客数は前年同期実績をやや下回りましたが、需要動向に応じた適切な座席管理もあり、収入は125億円の増収となりました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【国内線旅客事業】	平成20年3月期 第3四半期累計	平成19年3月期 第3四半期累計	増減	前年 同期比(%)
売上高(億円)	5,690	5,565	125	102.2
旅客数(千人)	34,781	35,413	▲ 632	98.2
座席キロ(百万座席キロ)	47,388	47,105	282	100.6
旅客キロ(百万人キロ)	30,415	30,907	▲ 492	98.4
利用率(%)	64.2	65.6	▲ 1.4	----

## ③国際線旅客事業

- ・ 欧米路線及びアジア路線を中心に、引き続き旺盛なビジネス渡航需要に支えられ、旅客数、旅客単価ともに向上しました。
- ・ また、ネットワークを拡大している中国線においては羽田＝上海(虹橋)線を就航させるなど、更なる利便性と収益力強化に努めてまいりました。

以上の結果、旅客数が前年比107.4%となり、収入は300億円の増収となりました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【国際線旅客事業】	平成20年3月期 第3四半期累計	平成19年3月期 第3四半期累計	増減	前年 同期比(%)
売上高(億円)	2,397	2,097	300	114.3
旅客数(千人)	3,640	3,388	252	107.4
座席キロ(百万座席キロ)	21,234	19,679	1,555	107.9
旅客キロ(百万人キロ)	16,091	15,089	1,003	106.6
利用率(%)	75.8	76.7	▲ 0.9	----

#### ④貨物事業

- ・ 国内線は、競争が激化する中でも販売強化を行い、輸送重量は前年同期実績を上回り、収入は前年同期レベルの実績を確保しました。
- ・ 国際線は、貨物ネットワーク基盤を強化したことから、輸送重量、収入とも前年同期実績を上回りました。

以上の結果、国内貨物収入は前年並みとなりましたが、国際貨物収入は76億円の増収となりました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【貨物事業】		平成20年3月期 第3四半期累計	平成19年3月期 第3四半期累計	増減	前年 同期比(%)
国内線	売上高(億円)	233	234	▲ 0	99.6
	輸送重量(千トン)	353	350	3	100.8
	輸送量(百万トンキロ)	338	338	1	100.2
国際線	売上高(億円)	539	463	76	116.4
	輸送重量(千トン)	249	206	44	121.2
	輸送量(百万トンキロ)	1,218	931	287	130.9

#### (2)連結財政状態

- ・ ホテル事業資産の譲渡による資金の回収により流動資産が増加し、総資産は前期末から1,306億円増加し、1兆7,327億円となりました。
- ・ 引き続き財務体質の改善に努め、有利子負債は前期末から969億円圧縮しました。
- ・ 自己資本は、5,320億円となり、自己資本比率は30.7%となりました。また、D/Eレシオが1.2倍に改善しました。

(億円未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成20年3月期 第3四半期	平成19年3月期	増減
総資産(億円)	17,327	16,020	1,306
自己資本(億円)(注1)	5,320	3,982	1,338
自己資本比率(%)	30.7	24.9	5.9
有利子負債残高(億円)(注2)	6,525	7,494	▲ 969
D/Eレシオ(倍)(注3)	1.2	1.9	▲ 0.7

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益に減価償却費や営業活動にかかわる債権債務の加減算を行った結果、1,415億円となりました。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、新規航空機受領による支出などもありましたが、ホテル事業資産譲渡による収入が大きく、1,007億円の収入となりました。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金返済や社債償還などにより、1,047億円の支出となりました。

以上の結果、現金および現金同等物の期末残高は、前3月期末に比べ、1,371億円増加し、3,093億円となりました。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フロー】	平成20年3月期 第3四半期累計	平成19年3月期 第3四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,415	1,359
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,007	▲ 976
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,047	▲ 670
現金および現金同等物期末残高	3,093	2,141
減価償却費	701	642

## 2. 通期の見通し

2007年4月27日に公表しました連結業績予想について、現時点での変更はありません。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【平成20年3月期見通し】	業績予想	前年実績 (平成19年3月期)	増減
営業収入	14,900	14,896	4
営業利益	790	921	▲ 131
経常利益	460	625	▲ 165
当期純利益	640	326	314

以上